

令和八年度

岡山白陵中学校入学試験問題

(二期)

国語

受験 番号	
----------	--

注意

- 一、時間は五〇分で一〇〇点満点です。
- 二、問題用紙と解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
- 三、開始の合図があつたら、まず問題が一ページから一九ページまで順になつていくかどうかを確かめなさい。
- 四、解答は解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 五、字数制限のあるものについては、句読点も一字に数えます。

—
次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑩の文中にある——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 歴史の授業で、さまざまな文明のコウボウについてくわしく学ぶ。
- ② そんなばかげた行動を取るのは、本当に愚のコツチヨウとしか言いようがない。
- ③ とても厳しい内容だと聞いているが、フタイテンの決意で練習に臨むことにした。
- ④ 物を使い捨てにする現代社会のフウチヨウは見直すべきだ。
- ⑤ 初めての挑戦ながら、フルマラソンをソウハした。
- ⑥ 久しぶりに会った友人と、お茶を飲みながらダンシヨウする。
- ⑦ この金庫室には、コウテツでできた扉を二重三重に設置することになっている。
- ⑧ 図書室で借りた本は、今まで読んだことがないほどツウカイな物語だった。
- ⑨ 家族のために身をコにして働くのも好きだが、家族みんなで楽しく遊ぶのも好きだ。
- ⑩ これまでとはまったく異なる観点で新たな実験をココロみたところ、見事に成功した。

問 2 ①「失礼」、②「功罪」と構成が同じ熟語を次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 思想 イ 発着 ウ 書店 エ 読書

問 3 次の①～③について、——線部の故事成語の使い方が適当なものには○、適当でないものには×をつけなさい。

- ① ぼくも兄も国語のテストの点数がのびず、五十歩百歩の結果だった。
② すぐれた研究発表の中でも、彼女の発表は圧巻だった。
③ 昨日先生にいただいた言葉を他山の石として、今後もがんばります。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ごめんなさいよ」

もう閉店していた曾根薬局のガラス戸が叩かれ、聞き覚えのある声があった。

母さんが、皿洗いの手を止めて、エプロンで手をふきながら出ていく。ガラス戸を開ける音。そして母さんが声を上げた。

「おやまあ、常盤書店さん。こんな時間にどうしました」

それに続けて、常盤書店の親父さんの渋い声がまた聞こえてきた。

「ちよっと健太を出してくんな」

「え？ 健太にご用ですか」

すると、親父さんの声がこう続けた。

「夕方、漫画雑誌が一冊なくなつたんだ。『少年キング』の最新号だよ。近くの人に聞いてみたところによると、その時刻うちの店に入りましたのは健太しかいなかったらしいんだが」

健太はぎよっとした。体が急に冷たくなって動けなくなる。卓袱台で新聞を読んでいた父さんが立ち上がると、店のほうに出て行った。兄の幸一は、声のするほうと健太の顔を、かわるがわる見ている。

やがて、

「健太、こつちに来い」

改まった口調で父さんが呼んだ。

健太はのろのろと向かう。常盤書店の親父さんはガラス戸を入ったすぐのコンクリート敷きのところで腕組みして突っ立っていて、こちら側には母さんがまだエプロンで手をくるんだまま、(注1)上がり框に膝をついている。その二人の間に父さんがやっぱりA¹していた。

大人三人が難しい顔をしているのをちらっと見てから、健太は目を伏せてしまう。何も悪いことはしていないのに、

なんだか体がすくむ。

すると、父さんが言った。

「健太。常盤書店さんから、漫画本が一冊なくなったそうだ。それで、なくなった時、店にいた客は健太一人だと常盤書店さんは言っている」

健太は口を開けたが、また閉じてしまった。

① 何を言われているんだ？

父さんがさらに静かな声で言った。

「健太、お前が盗ったのか？」

健太は夢中で首を横に振った。何か言わなくてはと思うのだが、声が出ない。

「だけど、健太が帰ったあと、おれが店の机に戻って見たら、一冊残っていたはずの『少年キング』はどこにもなかったんだぞ。ほら、あの時、健太が手に持って、(注)働くからこれをくださいって頼んでいた漫画雑誌だよ」

親父さんは厳しい顔でそう言った。

「健太が店にいる時に、新聞の集金がやってきただろう。勝手口から呼ばれたから、おれは店を空けて家へ上がって、新聞代を払いに行ったよな。それがすんで店に戻ったら健太はもういなくて、健太とおれが話していた机の上は空っぽだった」

「ぼく、店先の、いつも『少年キング』が並んでいる棚に返しました」

やっと声が出るようになった健太は、小さく答えた。② しやべっているうちにだんだん声が大きくなっていく。

「ほんとです。盗ったりしません、ほんとに棚に返しました」

健太は必死だった。

自分が疑われてしまうのは、わかる。健太が常盤書店にいる時に手にした「少年キング」が、健太が店から立ち去ったあと、なくなった。健太が、力仕事でも何でもするからくれなしかと頼むほど、欲しがっていた「少年キング」が。

だが、絶対に盗んだりしていない。

「親父さんが座すわっていた奥おくの机に返さなかったのは悪かったかもしれないけど、……盗ぬすんだりしていません。ほんとはです」

しかし、親父さんは明らかに疑いを解いていない。

「おれだって、同じ商店街の仲間んちのお子さんをむやみに疑ったりしないよ。だから、ここに来る前に、店内を全部探したんだ。だが、健太が言う雑誌の棚にもなかった。店中の、どこにもない。盗みの疑いをかけるからには、そのくらいのこととはするさ。本当にどこにもないのを確かめてから、こうして曾根薬局さんに来たんだ」

「でも、『少年キング』がなくなっているのが本当だとしても、犯人が健太だとは限らないでしょう」

健太の背後から、B 声こゑがした。

いつのまにか、兄の幸一もやってきていた。③ 健太の肩かたに手を置いて、 幸一は続ける。

「健太が出ていった後に常盤書店さんに入り込んだ奴やつの犯行やうぎやうかもしれない」

意外いがいだった。いつも健太を馬鹿ばかにしている兄さんが、健太をかばってくれている。だが、親父さんは険しい顔のまま、また首を横に振った。

「そのくらい、おれが考えねえとでも思ってるのか？　うちの店は夕方の六時に閉める。あの時健太は、六時ちよつと前にやってきたよな？　新聞の集金を払い終わって店に戻る時、通った茶の間ではちようどNHKの六時のニュースが始まるころだった」

「健太、時刻はそれで合っているのか？」

父さんに急に問いかけられ、健太はあわててうなずいた。それを見てから、親父さんは続ける。

「その時、店には客は誰だれもいなかった。そしてそのままおれは店を閉めたんだ。開き戸を閉めて鍵かぎをかけて、さて今日の売り上げを勘定かんじょうしようという段になって初めて、『少年キング』がどこにもないと気付いたんだよ」

「でも、親父さんが奥に引っ込んで健太が店を出てから、親父さんが店に戻るまでにほんのちよつとの時間はあったわけでしょう？　その隙すきにこっそり忍しのび込んで、親父さんの目を盗んでまた出て行った奴がいたかもしれないじゃないですか」

幸一が食い下がる。健太はますます意外だったが、同時にちよつと嬉うれしかった。

だが、親父さんはふんと鼻を鳴らただけで、感心した様子でもない。

「すみずみまで探し回った後で、おれは近所さんにも聞いてみたよ。でも、六時前後、うちに入入りした客は健太しかないって言うんだ。向かいの果物屋で店番している女の子がそう言ったんだよ。店から出て行ったのは健太だけなんだ」

聞いているうちに、健太はますます体が締め付けられるような気分になった。

「でも、夕方うちに帰ってきた時、健太は何も手に持っていないよ」

相変わらず冷静な声で兄さんが言った。

「この季節だ。健太の格好を見てくださいよ。半袖シャツに半ズボンでしょう。『少年キング』みたいな分厚い雑誌を、子どもがシャツの下に隠せるはずがないです」

親父さんは黙った。だが、その目を見ているうちに健太は悟った。親父さんは、幸一の言うことを信じていない。兄さんだから、弟をかばっていると思っっているのだ。

結局、その日はCに終わった。健太は自分を無実だと言い張ったし、実際、健太の部屋にも、曾根家のどこにも「少年キング」はなかったのだから、健太が犯人だという証拠は何もない。

「最新号を健太が万引きして、親父さんの店から家へ帰ってくる途中で捨てた可能性もある、とか言わないでくださいよ」

親父さんと父さんが健太の部屋を探索するのを突っ立って見守っていた兄さんが、ぶっきらぼうにそう言うてくれた。

「そりゃ、可能性としてゼロじゃないと言われれば、それきりですけどね。健太の机の上、見てやってくださいよ。先週号までの『少年キング』が、ずらりと並べられている。教科書なんてどこにも出してないくせに。健太には『少年キング』が宝物なんですからね、この家を持って帰らずに捨てるなんて、健太に限ってはありえないんですよ。あ、よかつたらおれの部屋ももう一度調べますか？ 押入の中をまだ見ていませんよ。それから一階の倉庫も……」

「……幸一、もういい」

父さんがうなるように答えて、親父さんを問いかけるように見る。

曾根家みんなに見つめられた親父さんは、硬い顔のまま口を開いた。

「まあ、健太じゃないというなら仕方ねえよ。邪魔してすまなかつたな」

常盤書店の親父さんはむつとりとした顔でそう言うのと、帰っていった。健太の潔白を信じていないのだろうが、証拠がない以上、事を荒立てないことにしたようだ。

健太の両親はというと、これも④すつきりしない様子だった。息子を信じたのはやまやまなのだが、実際に常盤書店の売り物がなくなっているのも本当のようだし、と。

信じたいが、信じるだけの証拠がない。

「本当に盗ってないんだな？ 健太、おれの目を見て答えろ」

改めてそう聞かれた父さんに、健太は大きくうなづく。

「そうよね、どんなに欲しいものだって、健太が泥棒なんてするはずないもの」

母さんもそう言つて健太に味方してくれて、健太は両親から解放された。

だが、健太の気持ちは収まらない。それは幸一兄さんも同じよう、健太を連れて自分の部屋に引つ込むところ切り出した。

「まだ、健太の疑いは晴らされていないな。いくら狭いわが家でも、その気になれば隠し場所はいくらでもあるだろう。おれは身内だから、証言を採用してもらえないしな」

「どういうこと？」

「今日の夕方、お前が何も持つて帰つてこなかつたことは、兄のおれだけしか知らないんだ。父さんと母さんがおれと同じように証言しても、やつぱり健太の親だから信じてもらえないかもしれないし、だいたい、あの二人はそれぞれ店と台所で忙しくしていたから、健太を見ていないものな」

「これから、どうなるの……？」

健太が心細そうな声を出すと、兄さんは安心させるようにこう言つてくれた。

「どうもならないさ。常盤書店の親父さんだつて、健太を警察に突き出すだけの証拠を握っているわけじゃないから

な。ほかに可能性がないから健太を疑っているだけなんだ」

「ほかに犯人がいないなら、疑われたって仕方ないよね……」

⑤ ころえようとしたが、涙がにじんできてる。

(もりやあきこ
森谷明子『涼子点景1964』による)

(注1) 上がり框——玄関げんかんの上がり口の所の板。

(注2) 働くからこれをください——常盤書店の親父さんは、いつも「少年キング」を買う健太のために、一冊とつておいてくれた。お金を持っておらず、買うことができなかった健太は「働くからこれをください」と頼んだが、親父さんから断られてしまっていた。

問1

A、Cに入る言葉として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A

ア ひとり立ち

イ 目鼻立ち

ウ 出いで立ち

エ 仁王におう立ち

C

ア けんか別れ

イ 生き別れ

ウ 物別れ

エ 別れ別れ

問2

——線部①「——何を言われているんだ？」とありますが、ここでの健太はどのような様子ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 父さんから言われている言葉の意味が理解できず、何か返事をしたほうがいいような気はするものの、どう答えればよいのかわからなくて困っている様子。

イ 常盤書店さんで漫画本が一冊なくなり、それが健太のせいではないのかと疑われているようだと感じておどろいてしまい、何も言えなくなっている様子。

ウ まったく身に覚えのないことでいきなり常盤書店の親父さんや父さんから漫画本を盗んだ犯人のように言われてしまい、怒いかりで頭に血がのぼっている様子。

エ 他人である常盤書店の親父さんとはかく、父さんや母さんから漫画本を盗んだと疑われていることが悲しく、何もかもどうでもよくなっている様子。

問3

——線部②「しゃべっているうちにだんだん声が大きくなっていく」とありますが、ここでの健太はどのような様子ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 最初は常盤書店の親父さんの厳しい表情や態度におびえて小さな声しか出せなかったが、次第に元気が戻ってきて大きな声が出せるようになっていく様子。

イ 最初はおどろきのあまり小さな声になっていたが、自分の言葉を何とかして信じてもらいたいという感情が次第に強くなり声が大きくなっていく様子。

ウ 最初は何を言えばよいかわからなくて小さな声で話していたが、次第に言うべきことがわかってきて自信を持って大きな声で話せるようになっていく様子。

エ 最初はずかしくて小さな声でしか話せなかったが、自分の意見を話すことに次第に慣れてきて堂々と胸を張って大きな声で話せるようになっていく様子。

問4

Bに入る言葉として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 怒ったような イ おかしそうな ウ 落ち着いた エ あせている

問5

——線部③「健太の肩に手を置いて」とありますが、この表現から読み取れる幸一的心情はどのような心情ですか。指示された字数で、次の にあてはまる言葉を考えて入れ、説明を完成させなさい。

必死で無実を主張する健太を見て、 と感じている心情。

四十字以内

問 6

——線部④「すつきりしない様子」とありますが、どのような様子ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 常盤書店で漫画本がなくなったのは事実だし、その漫画本は健太が欲しがっていたものなので、やはり健太が盗んだのであろうと内心では疑いを強めている。

イ 健太を信じたいが信じるだけの証拠がなく、あまりにも状況じょうきょうが疑わしすぎるので、健太が盗みの事実を正直に認めてすつきりすればよいのにと感じている。

ウ 健太が盗みなどするはずがないのに、常盤書店の親父さんはまるで聞く耳を持つとうとしないので、同じ商店街の仲間との仲がこじれてしまいそうで困っている。

エ 漫画本を盗んだのは健太ではないと信じたい気持ちはもちろんあるが、健太が犯人ではないということが明確になっていないことをもどかしく感じている。

問 7

——線部⑤「こらえようとしたが、涙がにじんでくる」とありますが、ここでの健太の心情を四十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問 8

本文から読み取れる登場人物の人物像として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 常盤書店の親父さんは、乱暴な口調だが、安易に犯人を決めつけない程度の分別は持っている人物である。

イ 健太の「母さん」は、優しいだけでなく、全力で息子を守ろうとする強さを持っている人物である。

ウ 健太の「父さん」は、考え深く、先入観や主観に左右されずに物事を判断しようとする人物である。

エ 幸一は、健太を馬鹿にするときもあるが、両親に逆らっても健太を守ろうとする弟思いの人物である。

このページには問題はありません

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

生態人類学者のマイケル・アルヴァードは、ペルーに住む狩猟採集民のピロの人々を対象に、彼らの狩猟行動が、^①環境保全を組み合わせ込んでいるのか、^②食料獲得の最適化をはかっているだけなのかを研究した。この研究は、現在の狩猟採集民の研究であり、いわゆる外の文明との接触も持っている人々が行っていることであるという難点はあるが、狩猟採集民の行動をつぶさに調査したものととして、希有な研究である。

ピロの人々がペルーの森林で出会うさまざまな動物は、それぞれ、追跡時間当たりのエネルギー獲得率が異なる。クビワペツカリー、アグーチ、クモザル、ホエザル、アカマザマ、キャプチンモンキー、ホウカンチョウなどは、からだが大きく肉が多いので、獲れたときのエネルギー獲得率は高い。

一方、クモザル、ホエザル、キャプチンモンキーは霊長類であり、成長速度が遅い。つまり、これらサル類の増加率は、アグーチやホウカンチョウに比べて低いので、個体数に対する狩猟の影響が大きく出る。もしも彼らがそのような個体群の増加率に配慮して狩猟をしているのであれば、三種の霊長類を獲るよりも、アグーチやホウカンチョウを多く獲ろうとするはずである。調査の結果は、アグーチやホウカンチョウは見つけても追跡しないことがしばしばあるのに対し、霊長類三種は見つけたら必ず追跡して捕獲していったことがわかった。□、彼らは、おいしいと思う獲物を追跡しているのであり、増加率の低い獲物は控えめに獲るということはしていないからである。

また、獲物の成獣体重の重さと、獲られた獲物における若齢個体の割合を見ると、カピバラ、テイピア、アカマザマなど、成獣体重の大きな獲物ほど、若齢個体を多く獲っていることがわかった。大きな獲物ほど、若齢でも十分に大きいので、若齢個体を多く獲っているのである。しかし、成獣の体重が大きな獲物は成長に時間がかかるのであるから、これらの若齢個体をたくさん狩猟してしまうと、個体群に対するダメージが大きいはずだ。それにもかかわらず、肉が十分にあるということで大動物の若齢個体をたくさん狩猟するのであるから、環境に配慮しているとは言いがたい。

これらをはじめとするいくつもの角度からの分析から、アルヴァードは、ピロの人々の狩猟行動は、環境保全を配

慮したのではなく、短期的な肉獲得率の最大化をはかる最適戦略であると結論している。

しかし、世界中に分布している狩猟採集民の人口密度は、平均して一平方キロメートルにおよそ〇・五人である。これは、人間のような大きさの雑食動物の生息密度として自然界で予測される数値よりも小さい。肉食動物、草食動物、雑食動物は、それぞれ、体重に応じてどれだけの食料が必要であり、そのような必要とする食料を各自が得るには、一定面積にどれだけの個体数が住めるかという計算をすることができる。そのように計算すると一・五人になるのだが、狩猟採集という生業形態の人々の平均人口密度がその三分の一だとすると、彼らは、生態学的に十分に「分相応」の暮らしをしているということになる。

(中略)

ピロの人々の研究に見られるように、実際に彼らが行っている活動は、短期的な利益の最大化であるかもしれない。それでも、自然と調和していられたのは、狩猟技術の精度が低かったことと、人口がそれほど多くないこと、そして、商品経済のために獲物を獲るといことがなく、③食べる分だけ獲っていたからなのかもしれない。いずれにせよ、現在の狩猟採集民がどのように環境保全をしているかの研究はまだ少なく、議論が多いところである。

狩猟採集生活は、ある場所から他の場所へとつねに移動する生活である。食料をとるために一定の場所にキャンプを設営するが、その周辺での食料獲得率が落ちてくると他の場所に移動する。そうではなくても、人間関係の気まぐさからキャンプを離れる、好きな人々と一緒にいたいからそちらへ行くなど、さまざまな理由から人々はキャンプを移動する。

そうすると、持ち物を運ばなくてはいけない。自動車も電車もないのだから、持ち物はすべて自分で背負って運ばねばならない。非定住の生活では、移動を容易にするという理由からだけでも、持ち物は多くしたくない。物をたくさん所有したいという欲求はないのである。ビーズのネックレスなど、珍しいものがたくさん手に入った場合、狩猟採集民はそれを自分の物として抱え込むことはしない。自分は一つとって、あとは全部誰かにあげてしまう。そうすると、他人に喜ばれ、社会関係を強固にすることができる。

食料獲得の点から言えば、たくさん獲っても、冷蔵庫もなければ、たいした保存手段もないので、なるべく早く消

費してしまわなければ腐るだけだ。狩猟採集民は、大型獣が獲れたときにはみんな平等に分配して消費してしまふ。みんなが食べられる以上に獲ることに意味はないし、これは自分がとどめを刺した獲物なのだと言張して、自分と家族がその日に食べられる以上に独占しても腐るだけなのだ。その日暮らしと言えば、その通りである。物を抱え込むことの無意味さは、みんなが知っている。

④ 定住生活は、それを決定的に変えた。「自分の物」をどんどん蓄積しても、移動しないのだから一向に困らない。それどころか、蓄積した資源の量によって、他者を支配する手段が生まれるという道が開けた。そこから文明が生まれ、不平等と格差が生まれ、帝国が生まれた。

狩猟採集民の生活にも、「私有物」や「所有」の概念はあるが、食料をとっておけないことと、移動の際に自分がすべてを担いで歩かねばならないという制約のもとで、それが無制限に広がることはなかった。農耕、牧畜と定住生活は、「私有物」と「所有」の概念に対する制限要因を取り払ってしまったのだろう。穀物や家畜はどんどんいくらでも貯めておくことができる。それを、将来のために使うことができる。となれば、当面の必要以上に自然を収奪することが始まるだろう。

こうして人間は、文明を築き、資源を蓄積しようとしてきた。それは、自分たちの世代だけが幸福に暮らしたいと思つてやってきただけではないだろう。人間は、子どもたちや孫たちのためにを思つて、財産を蓄積してもいる。人間は、将来世代の利益を考えることができるができないわけではないのだ。

⑤ 問題は将来世代のために、「地球環境を保全する」ということが漠然とし過ぎているところにある。家畜や土地や、金銭としての財産を残すことが、将来世代のためになることは理解がしやすい。しかし、「地球環境を保全する」ことや「持続可能な」状態を維持することが、どのようにして将来世代のためになるのか、そのことに対して個人が行うどんな行動が、自分の子孫の利益になるのか、その因果関係や（注）フィードバックループが明確ではないのである。

そのような明確なフィードバックが思い描けないことに対して、人間は、現在の自分の欲求を抑えてまで何かをせねばならないと思う動機付けを得ることはできない。環境問題の今後は、そのフィードバックがいかに確かなものとして人々に認識されるかにかかっているだろう。

人々は、自分自身の欲望を満たすことが第一であって、将来の世代の利益をおもんばかることは難しいのだと論ぜられることが多い。しかし、そうではないかもしれない。権力者は権力の地盤を強固にしようと努め、財産家は財産を残そうとする。それは子孫のためだ。子孫のことを思うことが難しいのではなく、難しいのは、「持続可能性」のよ
うな、自分の行為の因果関係が明確に見えない概念のもとで、将来世代の利益を考えることなのだろう。複雑適応系の生態学が発展し、少しでもその因果関係の糸のもつれをほぐして人々に提示できるようになれば、人々の態度は変化していくだろう。生態学の成果の貢献度は、非常に重要であり、かつまた緊急のものである。

(長谷川眞理子『世界は美しくして不思議に満ちている』による)

(注) フィードバックループ——行動の結果がどうなったかを確認して、次の行動の改善につなげる一連の流れ。

問 1

□に入る言葉として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア したがって イ つまり ウ あるいは エ そして

問 2

——線部①「環境保全を組み込んでいる」とありますが、ここではどのようなことですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 狩猟をする際に、個体群の増加率が低い動物や、成長に時間がかかる大型獣の若齢個体は控えめに獲るといった配慮をすること。
- イ 狩猟をする際に、森林での追跡時間が短くてすむ獲物や、若齢でも十分に体重の重い獲物のみをねらうといった配慮をすること。
- ウ 狩猟をする際に、接触のある外の文明からの反発を考えて、人類に近い霊長類の若齢個体は控えめに獲るといった配慮をすること。
- エ 狩猟をする際に、森林の樹木への影響を考えながらも、追跡時間当たりのエネルギー獲得率が高くなる獲物をねらうといった配慮をすること。

問 3

——線部②「食料獲得の最適化をはかっている」とありますが、ここではどのようなことですか。指示された字数で、次の□、□にあてはまる言葉を本文中から抜き出して入れ、説明を完成させなさい。

□ I 十六字

□ が高い動物を主な獲物とするなど、

□ II 十二字

□ をはかっているということ。

問 4

——線部③「食べる分だけ獲っていた」とありますが、それはなぜですか。四十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問 5

——線部④「定住生活は、それを決定的に変えた」とありますが、ここではどのようなことを意味していますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 物を抱え込むことに意味を持たせ、穀物や家畜はいくらでも貯めておけばよいと人々が考えるようになったということ。

イ 必要以上の所有は無意味だという意識を取り払い、他者を支配してまで物を蓄積するという行動が始まったということ。

ウ 必要以上の所有は無意味だという意識を取り払い、将来世代の利益を考えた行動ができるようになったということ。

エ 物を抱え込むことに意味を持たせ、持ち物の量で他者を支配し、不平等や格差が生まれるもとを作ったということ。

問6

——線部⑤「問題は将来世代のために、『地球環境を保全する』ということが漠然とし過ぎているところにある」とありますが、なぜ問題なのか。指示された字数で、次の I、II にあてはまる言葉を本文中から抜き出して入れ、説明を完成させなさい。

家畜や土地や金銭としての財産を残すことと比べて、「地球環境を保全する」というような行動は将来世代の利益についての I 十二字 ために、II 三十四字 ことができず、行動に移すことが難しくなってしまうから。

問7

本文の主張として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 現代の人類が狩猟採集をする場合は、味の良さや効率化を考慮して食料獲得をするよりも、環境保全を考慮して食料獲得をするべきである。
- イ これからの人類は、狩猟採集生活時のように必要なものだけを所有し、将来の世代のために自然からの収奪を抑えた生き方をするべきである。
- ウ 環境問題の解決には、財産の蓄積が将来世代の役に立つことを人々にどれだけわかりやすく提示できるか否かに左右されると考えられる。
- エ 複雑適応系の生態学が発展していくことで、人々にとって自分の行為と環境保全の関係がより理解し納得しやすいものになると考えられる。